

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月21日

【評価実施概要】

事業所番号	3770400244
法人名	医療法人社団 功寿会
事業所名	グループホームクレパス
所在地	香川県善通寺市原田町1565番地3 (電話) 0877-63-9080

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成19年9月26日	評価決定日	平成19年11月21日

【情報提供票より】(19年 8月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)12年 8月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	17人	常勤	12人、非常勤 5人、常勤換算 7.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建ての 1階 ~ 2階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	210円	昼食	525円
	夕食	525円	おやつ	105円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(8月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	6名	要介護2	3名		
要介護3	6名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.6歳	最低	77歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岡部医院、県立丸亀病院、末森歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、利用者主体の地域に根ざしたグループホームである。理念を見直し、事業所としての理念と利用者の気持ちを基に、9月から新しく掲げている。管理者である代表者は、職員の育成やサービスの質向上に意欲的で、内外の研修会参加やモデル事業、研修受託等を積極的に取り入れている。利用者の誇りやプライバシーを損ねないように、傾聴の姿勢と日常ケアの言葉かけや対応を重視し、言葉の言い換えや細かい対応の指針に沿った「職員禁句集」を実践している。基本的なスケジュールはあるが、一人ひとりの希望に沿った生活ペースを優先し、食事の準備や片づけ、行事への参加、陶芸や習字等、利用者の自主性を尊重し、生き生きと力を活かした楽しみや役割分担をしている。職員は観察や情報を共有して、潜在している力を引き出せるように働きかけ、利用者から生活の知恵を学んだり、支援する等、一緒に過ごしながら支えあう信頼関係を築いている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では特に改善課題はないが、更なる充実に向けて、管理者と職員は共有の視点を持ち、取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価では、一連の過程において、管理者と職員が、意見交換をして自己課題を作り、改善策には職員の意向も取り入れ、前向きな姿勢で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は地域の住民代表者、自治会長、利用者家族代表、利用者代表、市関係者、グループホーム関係者等のメンバーで発足した。会議では、グループホームや外部評価の説明、報告、情報交換をしたり、利用者代表が意見や思いを伝える機会を設けている。次回はメンバーの交流を深めるため昼食会も予定しており、運営推進会議を活かすために段階的に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情箱の投函はないが、家族の面会時には利用者の近況報告をしたり、気軽に家族等の意見や不満、苦情が聴けるように、環境や雰囲気作りに配慮している。管理者、職員は、意向に沿えるように共有し、運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に属し、地域と各行事への連携を取り、ふれあい祭りやボランティアとのフラダンス発表会等の行事に参加し、共有した楽しい時間を過ごしている。近隣の人々とは、日常的な散歩や買物で顔馴染みになり、親しくなった方の畑から野菜等を収穫させてもらう等、交流を深めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所としての理念と、地域の中で暮らしていく利用者の気持ちを基に、これまでの理念を見直し、9月から新しい理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有し、利用者のその人らしく尊厳ある暮らしを意識して、日々のケア場面で具体的な「職員禁句集」を作り、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に属し、地域と各行事への連携を取り、ふれあい祭りやボランティアとのフラダンス発表会等の行事に参加して、共有した楽しい時間を過ごし、地域との交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価では、一連の過程において、代表者である管理者と職員が意見交換をして、自己課題を作り、職員の意向を改善策に取り入れている。評価の活用については、継続して取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が発足し、会議メンバーに、グループホームや外部評価の説明、報告、情報交換をしたり、利用者代表が意見や思いを伝える機会を設けている。次回はメンバーとの交流を深めるため昼食会を予定しており、運営推進会議を活かすために、段階的に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議や地域研修として、ケアケア交流講座、善通寺市健康のつどいフェアや認知症ケア研修等を受託して、サービスの質向上に取り組む、直接、間接的に市町と連携している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に、利用者の日常生活や健康状態等を、写真を添えて送付している。家族の面会時には、近況報告もしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の投函はないが、面会時に、家族等の意見や不満、苦情が聴けるように、環境や雰囲気作りに配慮している。また、管理者、職員はそれらを共有して、運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者との馴染みの関係を大切にするため、事業所間の異動は行っていない。職員の新規採用時には、職員間で利用者への影響を最小限に抑える配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者である代表者は、職員の役割や経験に応じた段階的な育成に取り組む、内外の研修会参加の機会を作っている。また、モデル事業の「ケアケア交流講座」では、講師として職員が、地域で活躍する場となり、職員間で積極性や向上心が取り組みの成果として出ている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内外の同業者と研修を通して、情報や意見交換をしている。モデル事業の「相互評価事業」では、グループで評価の研修をして、お互いの立場が理解でき、高められた。同業者との交流により、サービスの質向上が図れるように取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気や徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と相談しながら、利用者の状況や意向を大切に、他の利用者や職員との関係作りには、気軽に訪問する等で徐々に馴染めるように、環境や雰囲気工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	煮物やばら寿司等の家庭料理の味付け、掃除の仕方等を、人生の先輩として利用者から生活の知恵を学んだり、一緒に過ごしながらか、穏やかな生活を支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩や食後のひと時等に、職員は日々の関わりの中でさりげなく利用者と会話し、利用者の視点に立った思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は、介護計画の作成時に参加する利用者や家族から意向を聞いたり、参加できない家族には、書面で記述してもらい、介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回の評価と3か月に1回の見直しを行っている。新たな状況変化には、家族との連絡を密にして、柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多機能性を活かした柔軟な支援をするため、小規模型居宅介護事業所の建設に向けて進行中である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の意向や希望を大切に、主治医に相談したり、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の方針を踏まえて、利用者、家族には、終末期のあり方について、早期の段階から話し合い、書面化している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への挨拶、食事、排泄、入浴等における言葉かけや対応を重視し、ロールプレーを取り入れた勉強会をしたり、言葉の言い換えや細かい対応の指針に沿った「職員禁句集」を実践し、プライバシーや誇りを損ねないように配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活スケジュールはあるが、一人ひとりの希望に添ったゆったりとした生活ペースを優先し、その人らしく暮らせるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや希望を、定期的に利用者本位の献立会議で取り入れ、食事の準備や片づけ等は利用者の自主性を尊重したり、力を活かした役割分担をしている。食事は、利用者と職員と一緒に、おいしく楽しむ共有した時間になっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の習慣と状況や希望等により、日中や夜間にも実施し、気持ちよく過ごせる支援をしている。また、希望により、温泉に出かけられるように対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	陶芸や折り紙、習字等の趣味や来客時の接待、行事の司会等を、楽しみや役割として利用者が受け入れている。職員は、観察や情報を共有して、潜在している力を引き出せるように働きかけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常の外出では、観音様参りや散歩で季節を感じたり、スーパーでお金を支払い、好きなものを買ったり、気分転換をして、ストレスをためないように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	代表者である管理者、職員は気配り、目配りをしながら、利用者を見守り、日中鍵をかけないケアで、安全面に配慮した自由な暮らしを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な訓練を実施している。また、隣接の事業所やガードマンが応援できる協力体制を作っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養バランスを考え、管理栄養士が確認している。職員は、一人ひとりに意識して関わり、食事の摂取量や水分量を把握し支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、不快な音や光などの環境に配慮したり、それぞれの機能や目的にあわせた家具や備品を配置している。季節の花を飾ったり、利用者の状況や気持ちに添って、談笑したり、一人で過ごせる居場所を用意している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	表札を目印に、家庭で使い慣れた家具や手作りの作品、家族の写真等を飾り、利用者の好みにあわせた居心地のよい居室作りをしている。また、利用者が自筆で、簡単な目標を書いており、訪室者にも思いや意向が伝わる工夫がうかがえる。		